

Internationality and Diversity in Learning

私の4年間通った国際基督教大学は、名前の通り3つの使命を持っています。国際性、キリスト教、学問への使命の3つです。そしてリベラルアーツ（教養学部）カレッジとして創立したことも大きな教育の特徴になっています。4年間を通して、この4つの特徴を強く感じてきたので、4つとも交えてどのような大学生活を送ってきたかを紹介します。

学問をするときには、自分の考えと他者や先人の考えをすり合わせて新しい考えを作り出していきます。その中で、避けて通ることのできないのが英語です。話す、聞く、書く、読む、考えるなど英語で行わなければならないことは多いです。もちろん日本語での授業が多いですが、教科書は英語、参考文献は英語、たまにはフランス語、ラテン語など言葉の国際性はとても豊かです。それに加えて、さまざまな教育的バックグラウンドを持った学生の意見を受け止めることは、当初は英語で教科書を読むことより難しいことでした。日本国内、そして他国で受けた教育の多様性によって意見の出し方や、伝え方が一人一人違います。初めは自分の意見を受け取ってもらえるタイミングで発言することすら難しいのです。ただだんだんとICUの授業のスピードに慣れたり、ディスカッションの仲間の雰囲気をつかみ取る力がついてくるので、いまでは意見交換は授業で一番楽しい時間になっています。

今回はICUにおいて経験してきた国際性や多様性について紹介いたしました。しかし、百聞は一見にしかずです。ぜひICUでの学びをオープンキャンパスの日等を利用してご自分の目で見てください。ありがとうございました。

International Christian University

国際教養科 10 期生

国際基督教大学 教養学部 4年 和田祐里子